



編集・発行
日蓮宗 能勢妙見山
広報部

〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

お風入れ御宝物説明会

10月19日（日）宝物の公開展示を1日限定で開催します
能勢妙見山の縁起並びに展示品の説明会を開きます

場所：能勢妙見山宝物館

時間：午前11時半より

※雨天の場合は宝物保護のため開催を中止します

【10月の行事予定】

★写経会

12日（日）11時

★清掃の日

15日（水）11時

★月例祈願法要

15日（水）13時

☆御宝物お風入れ

19日（日）於宝物館

★月例祈願法要

19日（日）13時

11時半より能勢妙見山縁起説明を行います
火伏せ守りの黒札を授与します

【11月の行事予定】

☆七五三詣り祈禱 1日～30日

◎お子様の成長を祈り期間中毎日ご祈禱します
ご祈禱札並びに御守り・記念品等を贈呈します

☆宗祖御会式法要 8日（土）～9日（日）

宗祖日蓮大聖人のご恩に感謝し、報恩法要を
二日間にわたり厳修 御会式桜・おはぎの供養

★清掃の日 15日（土）11時

★月例祈願法要 15日（土）13時

★月例祈願法要 22日（土）15時

◎ご祈禱・ご回向等のお申込はFAX・メールでも
受け付けています

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のために
ご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅
から山上までの送迎車を用意しています
利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を
願います 但しご希望に添えないこともあります

豊かな心の実り

植田 観龍

田んぼの稲穂は黄金に色づき、畑には様々な作物が収穫の時を迎えます。自然界全体が豊かさを分け与えてくれているように感じられます。この光景を前にすると、私たちは自然の恵みへの感謝とともに「収穫」という意味を改めて考えさせられます。

この実りは決して偶然に与えられるものではありません。春に種を蒔き夏の暑さの中で水を与え、手間を惜しまず育ててきた日々の積み重ねがあつてこそ、秋の収穫に至るのです。

「因果の道理」もまた同じことを教えています。「善き因を積み重ねれば、善き結果が来る。逆に怠りや過ちを重ねれば、それもまた必ず自分に返ってくる。」秋の収穫は、因果の理を目に見える形で示してくれている

ように感じます。

私たちの日常生活においても同じです。誰かにかけた一言、ささやかな思いやりの行動がすぐ形にはならなくてもやがて心の実りとして自分に返ってきます。

逆に心ない言葉や振る舞いもまた知らぬ間に人との関係を損ね、自らを苦しめる結果を生み出します。

だからこそ、たとえ小さなことでも日々善き種をまき続けることが大切なのではないでしょうか。

子育てもよく似ているなと思います。子どもに声をかける一言や共に過ごすさやかな時間は、すぐ形にはなりませんが、やがて大きな心の支えとなつて実を結びます。逆に忙しさの中で冷たい態度を積み重ねてしまえば、子どもの心に影を落としかねません。親の言葉や態度は、人生の畑に蒔く種のようなものです。秋の収穫に感謝する時、

自分の人生という田畑に、どんな種を蒔いているかを見つめ直したいものです。今日の一言一つの行動が、未来の自分や家族、そして子どもたちの心の実りとなります。また収穫の喜びは独り占めするのではなく、分かち合うことでさらに大きな幸福となります。家族や地域のひとと喜びを味わいながら、感謝と慈しみの心を広げ、共に豊かな実りを育んでまいりましょう。

闍伽（あか）

水をいうが、貴賓（きひん）たちは特に仏に奉る水をさしている。もとはサンスクリット語 āṇḍa の音写で阿伽とも書く。かつてイタリアへ行つたとき水をアクアというのを聴き、すぐに水だと理解できました。

《法華經に学ぶ現代》

純智庵

我が深心を知しめて

授記せられば

甘露を以て灑ぐに

熱を除いて

清涼を得るが

如くならん

『授記品第六』

成績良からうが悪からうが
子供は誰もが願つて
先生 ボクも褒めてよと
教育の基本は
伸ばすことにある

草木に水をやるように
心に潤い与えれば
悩みの熱は
消え去つて
ヤル気の風が
吹くでしょう

知識まめ仏教

融通無碍（ゆうずうむげ）

「融通」は、臨機応変に事処理すること。金銭や物品などを互いにやりくりする場合にも使う。また「無碍」は仏教に語源があり、障害・障礙のない状態、つまりさわりや妨げがなく、捕らわれる事物が一切なく自由自在な状態にあることを表す。

「融通がきく」とは型にはまらず行動することといい、さらに「融通無碍」といえば、特定の考えに捕らわれず、いかなる事態にも対応すること。反対に、型どおり決められたことや命令されたことしかできない人は、「マニュアル人間」といわれることも。融通無碍といつても、規則や社会ルールを無視して自由奔放に行動するのは論外であるが、型に縛られ四角四面でまったく応用が利かないというのも、時として齒がゆい思いをすることもあるものだ。